

「子は親の鏡」

先日の日曜日のことです。

息子と娘がロボットのおもちゃで遊んでいると、娘が触っていたロボットの腕が外れてしまいました。息子に「お兄ちゃん直して！」とロボットをわたすと「何で壊すの!？」と怒りながら外れた腕をはめようと必死です。しかしはまりません。

すると少し離れたところで一部始終を見守っていた私のところに「妹が壊した!! お父さん直して！」と怒りながらロボットを持ってきました。そんな息子に私は「自分のときは“何にもしてないのに壊れた”というのになんで妹のときはそんなに怒るの？」と尋ねました。

息子は返事にこまっていました。その間に腕を直して「こんなことで怒ってはいけないよ」といいロボットをわたすと「はい！」と行ってまた妹と遊びはじめました。

自分の時は「壊れた」、妹の時は「壊した」です。

しかし、よくよく考えてみますと私たち大人や社会は、他人のミスは責め、とことん責任を追及しますが、自分のミスはごまかしたり隠したり正当化したりしていることが多々あるのではないのでしょうか。

子どもは大人の真似をして育ちます。その行動の善悪にかかわらずです。

「子は親の鏡」といわれますが、親は子に真似されても恥じない生き方、社会は子に真似されても困らない社会にしなければいけないと、子どもたちの姿を通して気づかされた日曜日でした。